

遇ぐう
善ぜん
知ち
識しき

知遇
識善

永観九上世法主實空



法然上人が、専修念佛^{せんじゆねんぶつ}をもつて比叡山を辞し、まず向かわれた先は、遊蓮房円照^{ゆれんぼうえんしょう}という念佛聖^{ねんぶつせい}が住んでおられた京都西山^{きょうとにしやま}の地でした。法然上人は、遊蓮房の深い念佛信仰をお知りになり、わざわざそこに向かわれたのです。そしてともに念佛をお称えなさいました。

二人の間柄については、法然上人が後世、「私にとって浄土の教えと遊蓮房とに出会えたことこそが、この世に生まれた最高の思い出である」とおっしゃったほどの深いものでした。

人々を念佛の信仰に導く人を、善知識^{ぜんちしき}といひます。法然上人にとって遊蓮房こそまさに、善知識^{ぜんちしき}でありました。遊蓮房は法然上人より先に往生なさいましたが、その先立って往かれるお姿に、法然上人は念佛の功徳を確信されていったからです。

善知識——善き師^{ぜんよし}との出遇いと導きが、いつの世にあつても肝要です。

総本山 永観堂 禪林寺

右の色紙は管長久我儼昭猥下のご染筆です。前々号の色紙は、京都市在住杉村宏様に進呈します。ご希望の方は八ガキで住所氏名希望号数を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。